道徳だより
〈5月号〉

さかなのなみだ

さかなクン

【資料について】　いじめのない集団【公正、公平、社会正義】　教科書p30～p33

中学生のときに、友人や先輩が無視される状況を目の当たりにした筆者・さかなクンは、さかなの世界にも同じようにいじめがあることを綴っている。また、仲間はずれにされた子と一緒につりをするなど、その子を孤立させないことや、好きなことに夢中になるといやなことを忘れられると語っている。いじめやいじめにつながるトラブルを解決し乗り越えることで、新しい集団生活を送ることができると気づかせてくれる教材である。

【ねらい】
いじめという身近な問題を登場人物の心情に寄り添い考えることを通して、自己と向き合い同調圧力に流されず、正義や公正を実現するために努力しようとする態度を育てる。

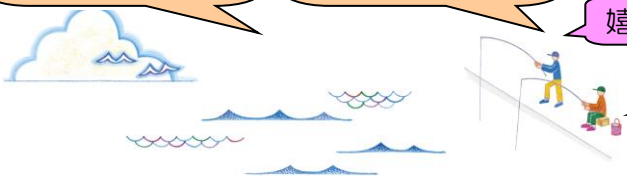
さかなクン

仲間はすれにされた子とつりに行った時…

- 少しでもいいから楽しんでほしい
- 誰かがそばにいたら楽になるかも
- 嫌なこともあるけど楽しいこともあるよ
- 励ましてあげたい
- 心配している
- 「一人じゃない」とわかってほしい
- 自分ができる限りのことをしたい
- 不安な気持ちを和らげてあげたい
- 助けてあげられなくて申し訳ない
- リフレッシュさせてあげたい
- 後悔して心の中がもやもやしている

仲間はずれにされた子

- この人はいじめないから安心だ
- 一さかなつりに行けて楽しい
- 嬉しい
- 自分にも仲間がいる
- 不安な気持ちが安心へと変わった
- いじめに加わらない人が友達でよかった
- 最初は不安だったけど一緒に来れてよかった



自分自身の生活を振り返って考えたこと、学んだこと…

- いじめを受けた人はいじめてこない友人がとなりにいるだけですこしほっとできるのかなと思った。いじめられている人がいたら、せめてその人の味方でありたいと思った。
- 自分はお母さんや友達に見たことやあったことを言うだけで助けたり行動したりはできなかった。でもさかなクンの話を聞いて、少しでも安心させられるように、いろいろ考えて行動していきたい。
- いじめをとめられなくても話を聞いてあげたり後から声をかけたりして自分なりに行動したい。
- もしいじめをとめなかったら後悔するかもしれないから、見かけたら声をかけたい。声をかけたら次のターゲットが自分になってしまうかも、と思ってしまう。そんなことを思わず声をかける勇気が欲しい。